

神戸市長 久元 喜造 様
神戸市港湾局長 長谷川 憲孝 様

2025年3月19日
日本共産党神戸市会議員団
団長 森本 真

米艦船の神戸港入港申請にあたり、非核「神戸方式」にもとづく厳正な対応をもとめる要望書

当局におかれましては、神戸市民の安全、平和、福祉の増進のためにご奮闘されていることに敬意を表します。

米国海軍艦船「USS WARRIOR (ウォーリア)」が3月24日に神戸港・摩耶ふ頭へ入港を申請しています。

市民からは、「非核『神戸方式』50周年のこの時期に、なぜ米軍の艦船が寄港しようするのか」「平和の港、神戸港をまもってほしい」と懸念の声が寄せられています。

神戸市は、神戸港に入港を申請する外国艦船には、例外なく「非核証明書」の提出を求めてきました。それは、神戸市会決議「核兵器搭載艦艇の神戸港入港拒否に関する決議」(1975年3月18日)に基づいて50年間守られてきたものです。

日本共産党神戸市会議員団は、この度の、米艦船の神戸港入港申請に対して、市会決議にもとづき厳格に審査し、「非核証明書」を提出しない艦船は使用を許可しないことを求めます。

わが会派としても、2月26日の本議会の代表質疑において、非核「神戸方式」50周年の節目の年に、非核神戸方式を持つ平和のまち神戸市も国際社会に団結し、国際紛争を終わらせるために行動することを求めました。同日の本会議において、久元市長も「非核『神戸方式』につきましては、従来の考え方を変えるつもりはありません」と明言されておられます。

非核「神戸方式」は、50周年を迎え、国内外から大きな敬意と称賛を受けるに止まらず、北東アジアの今後の平和構築を展望しても重要な礎に位置づけられるものです。

神戸市として、非核「神戸方式」の厳格な実施を重ねて要請いたします。